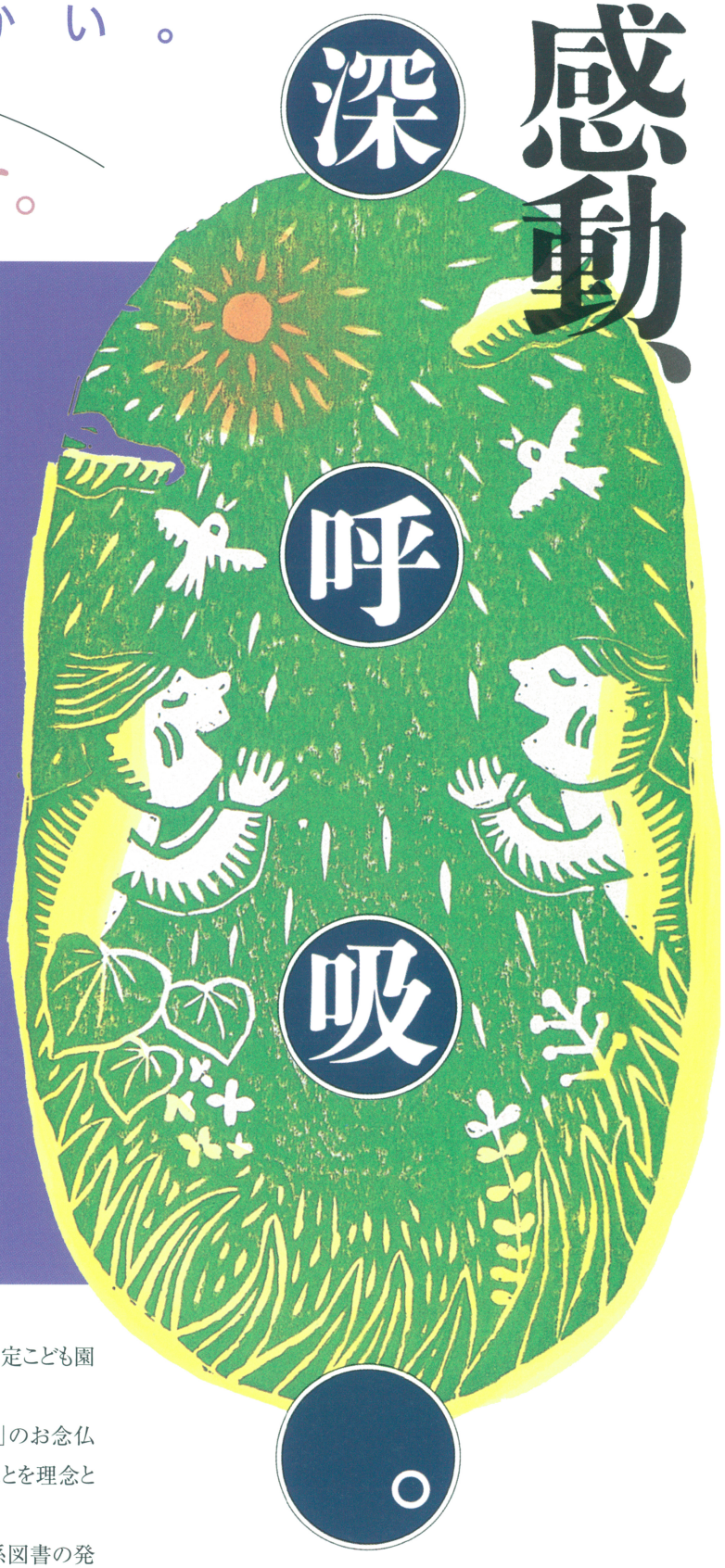
大きくてあたたかい。

浄土宗保育協会です。

感動、深呼吸。



ほとけの子は明るい、あたたかい。
ほとけの子はつよい、くじけない。
ほとけの子は人と人の深い絆にむすばれる。

おさない生命が鼓動するこのひと時に、
仏の智慧(ちえ)と慈悲(じひ)をはぐくむ。
ヒトが人としてあるための人間の根っこを、
深く広くたくましく育てる。
からだに、こころに、生きる力とやさしさを。

歓喜、躍動、挑戦。いのち躍(おど)る体験のくりかえし。
感動、深呼吸。
深く吸い込んだ息で、生きるよろこびを歌うために。

浄土宗(じょうどしゅう)のお念仏は、完全なる人格を尊ぶ声。
阿弥陀(あみだ)さまの慈悲の光につつまれて、
だれもがみんなほとけの子となる。

浄土宗保育は、輝くほとけの子を育てる保育です。

浄土宗保育協会は、浄土宗の寺院・僧侶が運営する幼稚園・保育園・認定こども園および保育関係者による連合組織です。

浄土宗保育とは、阿弥陀さまの平等のお慈悲を信じ、「南無阿弥陀仏」のお念仏に勤しみ、子どもも大人も「仏・法・僧―明るく正しく仲よく」の心をはぐくむことを理念としています。

定期事業として保育者の研修大会、帰敬式(ききょうしき)、地区研修会、教材や関係図書の発行などを行い、教職員の資質向上をはかるほか、設置者および園長の研修、施設相互の連絡提携なども重要な事業の柱としています。



昭和26年発足の浄土宗保育連盟を前身とし、正式には昭和39年に結成をみた、仏教教団としては、もっとも長い歴史と実績を有する研究組織のひとつとして広く知られています。

みんな、
ほとけの子どもたち。

浄土宗の保育です。



生きることのみなもとから



浄土宗保育が願うもの



すべてのいのちを尊び、大切にしよう。

わたしたちが、やがて子どもたちの無垢な魂にやどってほしいと願うのは、その小さな生命が、この世にたったひとつしかない、絶対のいのちであるという自覚です。

自分にとってかけがえのないいのちは、他の人にとってもたったひとつの、尊きもの。わたしもあなたも、すべてのいのちを喜びあい、大切にできる人になってほしい。ほんとうのやさしさ、おもいやり、ただしく自分を律する心、使命に邁進する意欲。人間にとって大切な、そういうひとつひとつの心は、きっといのちの自覚に目覚めるとき、はじめて生まれてくるものにちがいありません。

いまあるいのちの自覚とよろこび。物や情報がどれほどゆたかになっても、それは現代という時代に、もう一度見つめなおされなければならない心の教え、仏教の真髄といえるものなのです。





明るく正しく仲よく。

仏教は、教えに帰依するものが深く敬うこととして、仏・法・僧の三宝を謳います。

仏とは、わたしたちが目指すべき理想の姿。たったひとつの大切ないのちだから、からだも心も明るく元気であることが、ほとけさまを敬うこと。

法とは、正しい心の姿。よいこと、悪いことの判断をしっかり身につける。自分の意志を的確に表現する。言葉の活動や正しい生活習慣の定着が、法を敬うこと。

僧は和合の心。三宝にうたわれる僧とは、仏法のもとに集う人々の集団を表す言葉です。人はだれもひとりでは生きていけません。そして仲間がいるから、精一杯の力が発揮できる。仲よく、支え励まし合う仲間づくりが、僧を尊ぶこと。

明るく正しく仲よく。それが、浄土宗保育の三つの願いです。







ひとり一人が育つ「和合」の保育

法然上人が開かれた浄土宗のお念仏は、阿弥陀さまを尊び、いま生かされるいのちのよろこびを謳う声に他なりません。阿弥陀さまを尊ぶ気持ちは、あなたを尊重し、わたし自身をみつめる心をはぐくみます。

手を合わす時間、みほとけさまのお話を聞く時間。折々に組み込まれた宗教情操を育てる活動とともに、ほとけの三宝を敬う日常の園生活の一瞬一瞬が、子どもたちにやどる仏性をゆたかにはぐくむ活動となるでしょう。

みほとけのまなざしのもとで、子も親も、そして、園にたずさわるひとり一人もゆたかに育つ和合の人間集団。それがわたしたち浄土宗保育の姿です。



浄土宗保育協会
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗社会部内
TEL 03-3436-3351 FAX 03-3434-0744